心して暮らしるように

認知症サポーター養成講座初開催

□江別市・デイ結いの家文京台□

江別市のデイサービス結いの家文京台は事業所併設の賃貸住宅空き部屋で、同市大麻第1地域包括支援センター協力の下、認知症サポーター養成講座を開催した。

近隣に住む民生委員ら約10人が参加。田村寿美子管理者は通勤途中の夜、交差点などで道に迷っている様子の高齢者に声を掛け、大事に至らなかったことが複数回あるという体験談を交え、「ちょっとおかしいなと思うことが大切。『こんばんは。私もこっちの方に行くから、一緒に行きますか』など、驚かせないように声を掛けてあげるのがよい」と呼び掛けた。

営はONODERAナーシングホーム（本社・東京都千代田区）。開設から13年を過ぎ、事業所のある文京台地区も高齢者が増えていることから、認知症になっても安心して暮らし続けられるよう地域力を高めるため企画した。

外国人介護人材「新規受入」「定着支援」

道が無料オンラインセミナー

は同じ内容）。「定着支援」は9月26日、11月14日ともに同じ内容で午後1時から3時20分まで。保険労務士、日本語教師）が務める。

参加無料。道内介護事業者が対象で、定員

クローズアップ

Route148でイベントなど展開、社会福祉法人愛敬園

――札幌市西区

産福学連携、高齢者社会参加も促す

山﨑本部長（右）と紺野さん

札幌市西区などで認定こども園、障害者グループホームを運営する社会福祉法人愛敬園は、菓子製造・販売の石屋製菓が同区で運営するコミュニティスペース「西のまちいこいの駅Route148（ルートイシヤ）」で子育てサロン、地域交流イベントを開催している。大学も含めた「産福学連携」の取り組みで、高齢者のボランティア参加を呼び掛けるなど、生きがい・交流機会創出に取り組む考えだ。

Route148は同社の新業態として5月に子育て世代、住民の憩いの場としてオープン。ジェラート、焼き菓子を提供、キッズスペースも備える。「子どもの遊べる場が少ない」の住民の声に地域貢献として開設した。

愛敬園は系列事業所内で子育てサロンを開設したが、参加者は園児の保護者が中心。Route148開設理念と合致することから協働が始まった。

子ども食堂、子育てサロン、交流イベントを定期的に開催。愛敬園保育士が子供たちに対応し、保護者の相談に乗る。同法人の山﨑正人法人本部長（社会福祉士）は「日常生活の中で、ふらりと立ち寄れる拠点のあることが、参加しやすさにつながるのではないか」と期待。地域高齢者の居場所、ボランティア機会として社会参加と交流、生きがいを生むのが狙い。幅広い世代が関わる多世代交流実現を目指している。

一連の取り組みは愛敬園の「このゆびとまれプロジェクト」の一環。Route148をハブとし、行政や社協、自治会や福祉施設、企業を巻き込んだネットワーク構築で、包摂的な共生拠点を目指す。北星学園大社会福祉学部の畑亮輔准教授ゼミとも連携。学術面と学生の若い視点から意見を受ける。

地域の交流拠点となるRoute148

同社Route148事業室の紺野実佳さんは「子ども連れが施設のターゲットだが、高齢者も散歩途中で立ち寄る。地域の交流の場になれば」と展望。

山﨑本部長は「社会問題や家族の課題が複雑化する中で、目指すのは地域福祉の向上。地域の声を拾い上げてサービスにつなげていきたい」と地域の将来を見据えている。

ト（姉妹紙・北海道医療新聞紙面から）

で

援」が派遣回数1198回で17.9％増、延べ日数は3505日で5.3％増といずれも前年度を上回った。常勤医の紹介成立は前年度より3人減の5人で、診療科は内科が3人、整形

のみ）の概算として、約600億円と試算している。建て替えで災害医療に対応した大規模諸室の整備や、搬送用EVなど救急医療設備の充実が可能になる。

◎Fビレッジ整形外科スポーツクリニック8月オープンへ

心臓病等総合支援センターモデル事業の実施法人に、北大を採択した。同事業は1月25日に公示。18都道府県22医療機関からの応募があり、12都道府県の医療機関を選定。審査は総合支援に関する内容、都道府県における循環器病対策推進計画の進捗状況、自治体規模、地